

平成30年度 第2回 援助会員養成講座



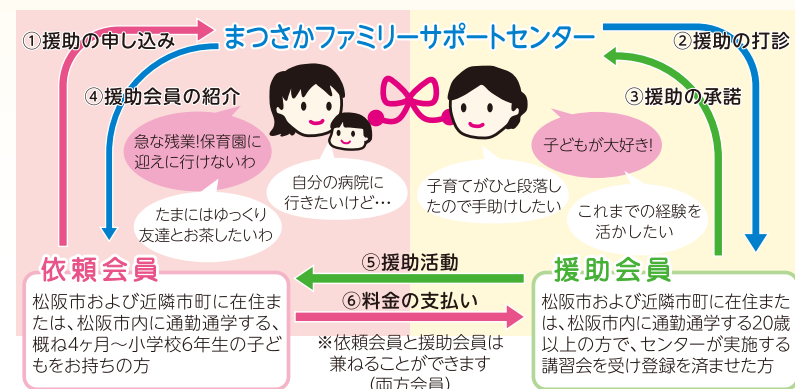
会 場：松阪市産業振興センターカリヨン別館（三重県松阪市日野町788カリヨンプラザ 1階）
松阪市市民活動センター（三重県松阪市日野町788カリヨンプラザ 3階）
対 象：松阪市内及び近隣市町に在住する20歳以上の方
募 集 人 数：30名（先着順）
受 講 料：無料（但しテキスト代2,200円が必要となります）
託 児：無料 必要な方は、平成31年1月10日（木）までにお申し込みください。（お茶など飲み物をご持参ください）

月 日	会 場	時 間	内 容	講 師
平成31年 1月17日（木）	カリヨン別館	10:00～10:10	オリエンテーション	まつさかファミリーサポートセンター アドバイザー
		10:10～11:40	①保育サポーターの役割と心得	（特）松阪子どもNPOセンター 理事長 塩谷 明美
		12:40～14:40	②子どもの遊び	ユマニテク短期大学幼児保育学科 准教授 山野 栄子
		14:55～16:55	③保育の心	子育て支援アドバイザー 堀川 美子
1月19日（土）	市民活動センター	10:30～13:30	④小児看護	（株）ジェネラス訪問看護ステーション ほたるいせ管理者 岡田 まり
1月20日（日）	カリヨン別館	10:00～13:00	⑤子どもの心の発達と障害について	高田短期大学子ども学科 学科長 千草 篤麿
		14:00～17:00	⑥子どもの発育と病気	イワサ小児科 理事長 岩佐 敏秋
1月22日（火）	市民活動センター	10:00～13:00	⑦子どもの事故と安全・幼児救急法	日本赤十字社三重県支部 富内 直美
		14:00～17:00	⑧子どもの栄養と食生活	元三重中京大学食物栄養学科 教授 馬場 啓子
1月25日（金）	カリヨン別館	10:00～10:30	⑨松阪市の子育て支援サービスの現状	松阪市健康福祉部こども局こども支援課 こども担当主幹兼こども係長 松田 武己
		10:40～12:10	⑩乳児の暮らしとケア	松阪市健康福祉部健康づくり課保健予防係主任 田島 栄子
		13:10～13:40	⑪事業を円滑にすすめるために	まつさかファミリーサポートセンター アドバイザー
		13:40～16:10	⑫講座を振り返って	まつさかファミリーサポートセンター アドバイザー

まつさかファミリーサポートセンターのしくみ

サポート内容

- 保育園や学校・学童保育への送迎および一時的な預かりなど
- 軽い病児、病後児および緊急時の預かりなど
- 宿泊預かり



利用するには…

- ① まずはお電話の上、当センターまでお越しください。入会申込書に必要事項を記入し、登録してください（登録は無料です）。
 - ② 依頼会員とその条件に合う援助会員（2～3名）が、お子さんを交えて事前の顔合わせをします。
- ※ ①②を済ませておけば、依頼をすることができ、いざというときにも安心です。
※ 援助活動中の万が一の事故に備え、補償保険に加入しています。

まつさかファミリーサポートセンター

〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1階
（特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター内）

TEL/FAX 0598-20-8246
E-mail mfsc@mknpo.jp
ホームページ <http://www.mknpo.jp/mfsc/>
開所時間 月曜～金曜 8:30～19:00
駐車場は、カリヨンパーキングをご利用ください。

詳しくは
携帯で
アクセス！



利用料金は…

	※1時間あたり	
	通 常	緊急・病児
平日7:00～19:00	700円	1,000円
平日の上記以外の時間 および土、日、祝日	800円	1,200円
年末年始（12/29～1/3）	1,000円	1,400円

宿泊の利用料金（1回あたり）

22:00～6:00（連続8時間）	5,000円
年末年始（12/29～1/3） 22:00～6:00（連続8時間）	7,000円



『あなたの子育て応援します』

2019年1月（第31号）

ファミサポ

ホットタイム

発行元：まつさかファミリーサポートセンター

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今年度は活動件数が昨年と比べて大幅に増えました。内容は園や学童への送迎で今までと変わりありませんが、厳しい状況の中でひとりで子育てをしている方もあり、様々なケースのサポートが増えつつあります。

昨年10月28日、三重県人権センターにて里親シンポジウムが開催されました。実際に里親家庭で育った経験のある20代～30代の方々のお話を聞くことができました。その中で、子どもにとって里親家庭での日々の何気ない生活の中で積み重ねた年月が、かけがえのないものになっていることを実感しました。ファミリーサポート事業でも、地域の人が子どもに関わり子育てを支えることで、子どもが豊かに育つ場になっています。今後も地域でつながりながら子どもを見守り、育ち合う社会を目指していききたいと思います。

（特）松阪子ども NPO センター
理事長 塩谷 明美

交流会「親子deヨガ」



育児で疲れた体を
リフレッシュ～♪



子どもたちは、
援助会員さんと
一緒に遊んで
託児体験



ママたちだけで
おしゃべりタイム

まつさかファミリーサポートセンターは（特）松阪子どもNPOセンターが松阪市より委託を受けて運営しています



ステップアップ研修会

日 時：2018年11月18日(日)10:00～12:00
会 場：松阪市産業振興センター カリヨン別館
参 加 者：援助会員・両方会員 13名



今回のステップアップ研修会は、援助会員・両方会員の方々に参加していただき、活動中に起きたヒヤリハットや、どうしたらいいのかと困ったことなどを出し合いました。「こんなとき、どうする？」という事例が、各グループからいくつも出され、活発に意見交換ができました。

例えば、保育園への送りの援助を行うとき、『曜日によって、荷物が多いときがあるよね』という話が出ました。いつもの荷物だけでなく、お昼寝用の布団も持って保育室まで送って行くことがあるそうです。『私は、一度に荷物と一緒に子どもを連れていくのは大変だし、転倒すると危ないから先に子どもだけを連れていくようにしているの』と話される方もいました。『送迎のときには、子どもが転んだりしないように、必ず手をつなぐようにしています』と話す方もあり、安心で安全な活動ができるようにと話し合うことができました。保育園に送っていくという援助の中にも、“もしかしたら”というリスクを考えて、活動をしていただいています。

援助活動は、預かりであったり送迎であったり、内容や援助を行う子どもの年齢も様々です。援助を行うときに子どもが過ごす空間として整っているか、時間や心に余裕を持って活動ができるかということは、どの活動でも大切にしてほしいことです。また、依頼された以外のことが起きたときや、困ったことが起きたときには、自分で判断せずその場でセンターに連絡し相談をすることが大切です。子どもの気持ちには寄り添い、受け止めることは大切ですが、言いなりになることではありません。自分は良かれと思ったことが、子どもにとってどうなのかということを考えながら援助活動をしていきたいです。

今回、参加者の皆さんから、他の方の援助の話が聞けたことが良かったと感想をもらいました。私たちも、日頃の援助活動について話し合い、ふりかえることが出来ました。今後の活動に生かしていきたいと思います。

アドバイザー 西村



参加された方からの声(一部を抜粋)

- 子どもの気持ちを受け止めること、寄り添うことが大事だが、子どもの言いなりになることではない
- 依頼内容を守ることが大切、それ以外のことはセンターに連絡をし、確認をとる
- 子どもを第一に考えて、ケガのないようにしたい
- 親御さんとコミュニケーションをとって、情報を持って行動することが大切
- 良かれと思ってしていることが、子どもにとって良いことなのかと考えることができた
- 環境を整えることや、時間と心に余裕を持って行うことが何より大事
- 子どもの心の声が聴けるように関わりたい
- 自分が何を大切にしてサポートをしているのか改めて考えることができた
- 援助時の悩み、違いを話し合うことができて良かった
- 色々な人の意見が聞けて、とても参考になったので今後の活動に役立てたい



平成
30年度

ファミリー・サポート・センター 全国アドバイザー講習会・交流会

全体テーマ『ファミリー・サポート・センターにおける保護者対応』

【日時】平成30年10月5日(金)

【場所】アートホテル大阪ベイタワー

基調講演 「ファミリー・サポート・センター事業に

おける保護者対応を考える」

講 師 東京学芸大学 教育実践研究支援センター教授 小林正幸先生

近年、クレームは改善に繋がる事例として宝の山と捉えられ、クレームが言い易い時代になっています。些細な苦情の裏には重大な本音が隠れている場合があるので、相手の身になって冷静に考えながら話を聞き、相手の希望を明確に言葉にして確認していく必要があります。原因を取り除けば、相手の怒りや不満は静まっていくので、客観的事実を正確に調査して、記録し、報告を残して、関係者全員で共通理解するようになっていかなければなりません。失敗例や困った事だけではなく、うまくいった関わりも共有していくと、全体の質の向上に繋がっていきます。と小林先生は話されました。



グループワーク 「ファミリー・サポート・センター事業における保護者対応を考える

～初期対応のケースから学ぶ～

友達とケンカして、不登校になってしまった中学生、学校はきちんと対応してくれないと訴える保護者、それに対応する学校関係者、三者それぞれの立場で気持ちや支援策を考えるグループワークを行いました。子どもも保護者も、不登校やクレームの裏に、過去の失敗の積み重ねや周囲への引け目、学校への不信感、などがあります。自分は駄目だ、悪い子だ、悪い親だ、という気持ちを受け止め、あなたはそのまま良い、頑張っているよ、と認めていくことが、子どもにも、保護者にも必要だという意見が多くありました。学校は子どもとの関わりを増やして、保護者とも連絡を密に取るようにしていくと、信頼関係を築いていけるということです。

教育現場での、保護者、子ども、教師の三者の気持ちを考えていく先生のお話は、具体的で身近に感じられるものでした。ファミリーサポートセンターのアドバイザーとして、「自分を理解され、認められることで自信が持てるようになることが、子どもには勿論、大人にも大事」だということを心に留め、日頃から何でも話してもらえるような会員との関係づくりを心掛け、一人一人の気持ちに寄り添って、何が子どもにとって一番良いことかを意識しながら、円滑な活動が行われるように努めたいと思います。

アドバイザー 佐藤

会員の声

幼稚園から習い事への送迎で週2回利用しています。小さい兄妹がいるので待ち時間がほとんどなく家に帰宅できることが大変助かります。初めは援助に対して私も子どもも不安を感じていましたが、子どもの話や連絡のやり取りを通して安心できるようになり、今では子どももすっかり慣れ、今日は誰が迎えに来るのかなと楽しみにしています。

(依頼会員 M.H.)

ファミリーサポーターとして、何か出来ればと思っている中で、この支援事業を知り、援助会員として登録し活動させていただいています。

子どもにとって大切な時期に少しでもお役に立てばと思っています。子どもに一声掛けることで、素晴らしい笑顔、純粋な反応を見ることが活動の励みになっています。

(援助会員 S.T.)